

日本貿易学会第 58 回全国大会 統一テーマ趣意書

実行委員長

高千穂大学 庄司真人

サービスから見た貿易の在り方：新たな成長の枠組み

世界経済が鈍化し、日本経済の質的転換が求められる中で、サービス分野への関心が高まっている。2016 年度版通商白書によれば、この 10 年間のサービス貿易の伸び率は財を上回っており、日本経済が企業、産業、政策というあらゆるレベルにおいて、大きな転換期を迎えている。

特に近年の我が国における産業政策をみると、従来型の製造業の輸出促進に加えて、アニメーションや音楽などクリエイティブな領域やおもてなしを中心とするホスピタリティに注力されてきている。少子高齢化社会から人口減少時代に突入する中で、交流人口を増やすことによる経済活性化の動きは今後とも継続的に取り組まれることになろう。

サービスへの関心の高まりは、世界的な動きとなってきた。英国や米国を中心とする先進諸国では、サービスへの取り組みが加速し、サービスにおける貿易収支は黒字となっている。学术界では、サービス・ドミナント・ロジックが提唱され、サービスを中心とした思考の重要性が指摘されている。また、産業界から、サービス・サイエンスと呼ばれるサービスを中核とした科学への関心が寄せられ、さらには財とサービスの融合を果たそうとするサービタイゼーションへの関心は欧米のビジネス分野で盛んに検討されてきている課題となっている。

近年の貿易ルールに関する国際的な議論もこれらのサービス分野の成長に伴って検討されていると考えることが出来よう。モノの移転に関わる貿易ルールから、サービスで必要とされる権利、知的財産、提供するための技術を含めた枠組みが近年の貿易に関わる議論で進められているのは、サービス経済化の進展によるものであると考えることが出来る。

第 58 回大会では、「サービスから見た貿易の在り方：新たな成長の枠組み」としてテーマを設定することで、貿易の場面で課題となっている諸問題について取り上げるものである。かつて、アダムスミスは『国富論』の中で、サービスを不生産なものとして位置付け、議論の対象から除外した。しかし、生産と消費の同時性が技術の進歩によって解消されつつあるようになると、サービスの持つ特性は、より積極的な意義を持つようになるとともに、今後の経済成長を検討する上で必要不可欠なものとなってくる。我が国が直面している多様な課題を踏まえながら、サービスに関する貿易を議論することによって、今後の我が国の方向性の議論の場を提供するものである。